

其極のて嬌麗なる色彩、優雅なる描線、と精巧なる彫刻印刷と相映して、世界に卓越せる技術には少からず驚嘆せしめたるのである。

此浮世繪を歐米に於ては織物、彫刻物、陶器其他の工芸品に應用されて居る、先頃の佛國月刊雜誌「美術と裝飾」には日本浮世繪版畫摺方に就て圖解し、巴里の美術館で時々開催される、「古木版畫會」(アンティーク・ウッダー・エクスジビション) 展覧會には毎會多數なる觀覽者がある、彼の浮世繪研究大家として著名なる、米人故フエノロサ氏は我浮世繪を指して、世界美術史上最も卓越せる藝術とまで極言して居る、又米人ウエルドン氏は先頃酒井好古堂へ左の如き書簡を送られた、如何に外人が熱心に研究、且つ尊重しつゝあるかの一斑を窺ひ知る事が出来る。

小生當地に於て日本版畫の趣味普及に努め居り候浮世繪版畫は如何にして製作せらるゝか書物或は講演により説明致度存候當地には其摺方に關する種々の刊行物有之候へども誤謬多く精確の物少く御座候依て左記其摺方に不明の部分有之候間御教示被下候は幸甚の至りに存候(1)最初に紙上に印刷するは墨摺なるか又は色摺なるか

文明問題 玩具繪の研究 (一)

文學士 權田保之助

私が玩具繪に對して興味を覺え注意を向ける様になりましたのは、實は極く近頃のことでありまして、去る五月九日の夜神田元岩井町の玩具問屋伊勢屋さんの書で菅原君と一所に玩具繪の蒐集を見せて戴いたのが其の由りである。それから一週間はかりたつて對古堂で可なりよく真まつた玩具繪を調べて分類したりなどしましたのが、漸く物に成り掛けた取つ付きて了。世間には此の方面の研究を随分以前からなされて居らるゝ方があると聞いて居りまして、丁度伊勢屋さんとの時にお目に掛つた宮澤さんは餘程久しい前から御調べで居らるゝと承りました。同君が本誌に其の蒐蓄の一編をお送りになられると聞きました。非常によく思つて居ります。そんな具合で私は玩具繪に就いては本物の初心者では御座いますが、私は此の問題を暫らく自分らしい方面から研究して見たいと思つて居ります。

一、玩具繪の定義

「玩具繪」と一口に云へば解り切つたものゝ様に思はるゝけれども、少しく實際の問題に觸れて來る時は、其の範圍の極めて廣漠にしてこれを把握するの難い感を歎せざるを得ないのである。或る人は此れを甚しく廣義に解釋して玩

- (2) 糊は何の爲めに用ふるか
 - (3) 刷毛と房楊枝との使用法如何
 - (4) 膠水を使用する原因如何
 - (5) 膠水の精確なる製造法
 - (6) 繪師は彩色の配合、繪の具の品質、彫刻の巧拙に就き直接に摺師、彫師を指揮するか
- 講演に際して何人も小生の陳述に論争すべき餘地を見ざる迄精確に致度候、されど斯る事は容易の業に無之多くの準備を要すべく候、尙全然機械的な我米國の印刷術と美術的な貴國技巧手法とを比較して説明致度此事業に對し貴廠の御寛大なる御助力を仰ぎ度希冀仕候然らば自然相互の利益かとも存候

千九百十五年 二月廿日

日本東京 酒井好古堂御中

北馬の五かける傾城の二人飛つれたるに

北馬の繪北里と對の元ふで

たくさんさうに見ることなかれ

具を題材として取れるもの即ち玩具繪なりと云つてゐる。これは餘りに其の範圍廣漠として居ることを感ぜざるを得ない。少しく統一あり系統ある思索に立たんと欲する我々に取りては不適當のものであると云はざるを得ないのである

然るに又或る人は之に反して甚しく狹義の解釋を試みて子供が子供自身の判斷力に訴へて理解し同感し得る純自目的の繪を云ふのであると爲してゐる者もある。けれど此れは餘りに其の考が偏狹であつて、理論に一貫して實際に死したものであると云ふ諷を免れ得まいと思ふ。我々は其の中庸を取る必要がある。即ち假令玩具を題材とせる繪にせよ、それが「子供が享樂する」といふ要素を缺いてゐる時には到底「玩具繪」とは云ひ得ぬと思ふ。例へば刷物、團扇畫、納札などには随分玩具を題材とした物が珍らしくない。けれど其れは或は「玩具の繪」とは云ひ得やうが、我々の所謂「玩具繪」ではない。何となれば其等は「子供が享樂する」といふ大切な條件に缺けてゐるからである。さりとて此の「子供の享樂する」といふことを餘りに嚴密(？)否な餘りに偏狹に解することは避けなくてはならぬ。それを唯だ子供ばかりが享樂するものであり子供だけで其の判斷力によつ

て理解し得るもので無くてはならぬと云ふことは餘りに狭すぎる見解である。大人が傍にあつて其の興味を誘發し、その解釋を助けてやる物は更らなり、大人と子供とが共に楽しむ版畫までも所謂「玩具繪」に數え得ると思ふのである。その理由よりして我々は「判じ繪」「雙六」などを此の中に數えて考へることが出来る。けれども「子供が享樂の中心である」といふことは何處までも忘れられてはならぬのである。故に玩具繪を定義して「子供を享樂の主體の中心とせる版畫なり」と云はうと思ふ。我々は此の定義を出発點として玩具繪の研究に入らうと思ふのである。

二、玩具と文明

一切の研究に於けるが如く、玩具繪の研究も亦、これに當る人の思想と興味との如何によつて、多種多様の方面に分岐するものであると思ふ。而して我々は此れを我々に最も興味ある「文明」てふ側面より此の研究に手を着けて見様と思つてゐる。而して其の爲めに先づ以て玩具が人間の文明に對して如何なる位置を占つゝあるか、否な其れ程まで深入りしたことを、無くとも、玩具は文明の如何なる側

面を語るものであるか、玩具によつて我々は文明の如何なる方面を窺ひ得るものであるかを少しく考へて見度いと思ふ。

(I) 玩具と國民の特性 坪井正五郎博士は曾て「種族の特性は其の子供遊びの中によく現はれるものである」と云ふ様な意味の語をされた。實際子供の遊戯の中には深く其の國民の性情に根ざしたものであることは決して珍らしくないのである。我々が幼時に無意識で行つた遊戯の中には人種の由來、國民性情の主潮を物語つてゐるものが澤山にあつたことに氣が付くのである。國民が實質的に具へてゐることも見ることが出来る様な知的聯想の方面をもそれによつて知ることが出来る。國民が運命的に有してゐると見得るやうな感情發動の過程をも之れによつて知ることが出来る。國民としての理想も、國民としての情操もその中に窺ひ得るのである。而して遊戯に就いて上に述べたことは直ちに取つてそれを玩具に應用することが出来はしまいか。

(II) 玩具と時代の生活 玩具は前に述べたるが如く國民の特性を語るものであるけれども、又それと同時に各時代の生活と反映するものと云ふことが出来るのである。或る學者

は遊戯は來らんとする生活に對する子供の爲めの前準備であるといつてゐる位である、この説は到底俄かに受け入るゝことは出来ぬものであるけれども、其れは確かに子供の遊戯が有する大なる特殊の點を言ひ現はしてゐることは我々之を承認し得るのである。子供は其遊戯に於て大人が現在行ひつゝある生活を模せんとする強力な嚮向を有してゐる。子供は時代の實生活を縮少してこれを遊戯として樂しむものであることは我々が日常目睹しつゝある所ではあるまいか。男の兒が遊ぶ「戦ごっこ」にでも、女の兒が遊ぶ「あねさんごっこ」にでも、男の兒と女の兒とが混つて遊ぶ「お砂糖屋ごっこ」にでも何れも皆時代生活の面影を認め得ないものはないのである。而して此の如き遊戯の爲めの玩具は如何で時代の生活と没交渉にして終り得べきか。之は實に時代の生活の縮圖と見ることが出来るのである。けれど其れは單に其れだけ止るものではない。其れは更に一步を進めて時代生活の最も活躍しつゝある側面、最も著しき現象を示すものである。故に其れは時代生活に於ける新興現象と重大現象とを表現するものであると云ふことが出来るのである。例へば之を「交通」てふ現象に就いて考へて見

れば、盜賊横行した戰國の時代は昔語の夢となつて刀は鞘に弓は袋に納まる徳川の時代には東海道をはじめ諸街道の交通安全となり便利となつて、交通が極めて發達するや、交通に旅行に對する興味も時代生活に於ける重要にして新しい現象となつたのである。其の結果は多數の「道中雙六」となつて現はれてゐる。然るに明治時代に入り交通の事漸く進み人力車はれ汽車走り鐵道馬車の運轉をするや玩具はこの新しい生活現象文明現象を等閑視するものではない。或は人力車を描いた玩具繪を生じ、或は「汽車道中雙六」を作り、或は「鐵道馬車雙六」を出すに至つたのである。かくて電話電信が時代生活にある變調を生せしむるや、直ちに「電話雙六」「電信雙六」が世に行はれてゐる。近く電車開通の當時、之れに因んだ玩具の或は「雙六」となり或は「加留多」となり或は器具的玩具となつて到る處我々の目に觸れたことは事新しい事實であり、飛行機が現代生活に改造の斧を揮はんとして僅かに世に現はれるや、模倣飛行機熱は滿都否な全國を歴して有力なる新聞社までが先立ちとなつて其の競技會を催するといふ大した騒ぎ方をしたことも諸君等が記憶に鮮かなる所であると思ふ。

此の如く玩具は國民の特性と時代生活の特徵とを語るものである。而して此の「國民の特性」て文明の静的基本相と「時代生活の特徵」て文明の動的進化相とはやがて相結ばれて其處に「文明」を織り出すものであつて、玩具はかかる理由に立つて文明と不可分離なる關係を有するものなりと云ひ得るものではあるまいか。

三、男の兒の玩具と女の兒の玩具

文明史的に觀察するに人類の原始時代よりして男性と女性との生活に於ける活動範圍は全く岐別されてゐたのである。假令原始時代に於ては、後の進化せる時代に於ける如く男子は生産を規定し女子は消費を規定するものといふ程に分れるはずとするも、その生産も消費も男女各別の形式を取りあることは事實であつて、多數經濟史家の一致する所である。此の如く男女は互ひに相異なる生活の範圍活動の分野を有するものであつて、云ふべくんば男子は時代生活の外的側面を、女子は時代生活の内的側面を生活し行くものと爲すことが出来ると思ふ。此の兩側面は實に時代生活の二要素であつて、これを忘れて時代文明の核子に觸るゝこ

とは出来ぬのである。此處に於て我々は玩具の妙味を三歎し度い。即ち其の時代の男の兒が遊ぶ玩具には當時の男子の生活、即ち時代生活の外的側面の縮圖を見ることを得、其の時代の女の兒の手に觸れた玩具は當時の女子の生活、即ち時代生活の内的側面を語るものがある。斯くて此處にも亦、玩具繪と文明とが一種の關係に立ちつゝあることを知り得る理由がありはしなからうか。

浮世風呂會に就て

橋田素山氏と例の御成道とが企てた、浮世風呂會に付神田元柳原町の八兵衛湯の主人にして、川柳若柳會の首領なる坂下也奈貴氏が大乘氣になつて、チヨンノと御流しの二つ返事、私の所を御貸し申しませう、ナニニざくろ口や表掛り直すのなぞは難作もねへ、萬事私しにお任せなせへと湯屋丈けに肌ぬきどころか、素裸になつての應援に、澤庵の禮に貰つた留桶より嬉しく、オザと帯を解いて萬能へ入れる迄になつたところが、或人曰くざくろ口は夏の氣分ぢやアぢやせんせと、留桶からドン一本叩かれたり、ナール程と忽ち湯冷めがして此金十月迄延期に成れる次第なりだが、夫迄待つて居られず、近々二階のある風呂を也奈貴君の配慮に依つて探し出し、汗だけ流すザーツとした會を催す由。

渡邊華山翁の錦繪

西 水

華山の描いた錦繪と云ふものがあると云ふに至つては、頗る珍な話だが斯様云ふ次第である。翁が或る時豫めて懸念にする、芝神明前の錦繪問屋和泉屋市兵衛を訪ふた、よもやまの話し末、泉市は座敷にあつた屏風を指して、先生これへ張交に致しますのですが、何卒なにか書いて頂き度いもので頼んだのを、よし／＼と承諾て其日は歸つたが、程なく肩けられたのは、俳人の肖像で、桃青、其角、風雪、許六、支考、秋色の六枚であつた泉市はこれを受取るに、あまりに幽雅なるこの逸品に忽ち商賣氣質をあらわして、翁には無防でこれを刻して大錦繪になし「華山先生圖書」云ふ印章を押して市中へ賣出した、何しろ華山先生の錦繪と云ふので、案の條大評判忽ちにして賣切と云ふ好況に、泉市は大喜びで、第二杯目に取かゝらうとすると、市中の評判が高いので直ぐ此事が翁の耳に透入つて、錦紙に麗々しく飾つてあるのを見たから堪らない、泉市は早速呼び附られて、貴公も困るぢやア

ないか、屏風の張交せと云ふから書いて上げたのに、錦繪にして町繪師の繪と一所に飾られて賣るとは言語同斷だと嚴敷談じつけられて、泉市も一言の申譯もなく平謝りに謝つた末が、錦繪はモウ賣切れてないので、版木を差出して漸く事済となつた。その版木は直ちに打破られて、華山翁の錦繪と云ふものは、後にも先にも此六枚と云ふ、頗る珍品になつたのである。

因みに此錦繪の元箱六枚揃を、先年好古堂が得て今復刻して賣出して居る。

小泉迂外氏より

浮世繪初版並びに貴翰御惠與忝く感しく拜見仕候。その道の通人揃ひの御筆にてたゞく謹讀仕候へき、貴稿遠月堂煎餅考は殊に面白く橋口、菅原諸兄の時代物に對しちよつと世話物といつたやうな型にて御輕妙のほど感服仕候。すべて御裁稿の御より合せのよろしき雅俗兩方面の點はイヤ黒い／＼と申上候。浮世風呂會至極賛成に候。先はごりあへず御禮まで

六月十二日朝

迂 外 生

したものゝを創意して重信等も之を模倣してゐる。其他紅繪や草刷繪に之と同じ方法を示されること甚だ多い。それから名橋奇覽に至ると彼の病氣は一轉して「割もの」の腕前を甚しく誇つてゐる。之は江流などの西洋書模倣者から傳へられて彼自身の精密な筆先に熟練されたものであるが、此爲に構圖も描法も機巧にのみ趨つて、只曲尺とコンパスの働いた跡のみが見える、而も此に到つて、更に昔に返つて土佐風の體を用ひ、遠景や高所を描く助けにしてゐる。要するに北齋の風景畫は初期に於ては人物を主眼にし過ぎ、晩年に於ては描法の墮落によつて其階調を損じてしまつたのである。

廣重はさすがに風景畫を以て生涯の主作とするもの、其描く處の意匠、布置、色彩共に空前の妙技を示してゐる。北齋の山水が支那臭くして無暗に強く硬い線のみを使用してゐるに反し、廣重は飽くまで軽く軟き調子を出し、其寫生が北齋のそれよりも綿密であるものまでも、決して不愉快な重々しい心地を観る人に與へない。さうして前にもいつた如く、従來の浮繪が銅版畫の模倣であるから、往々にして機巧過ぎるに反し、廣重の風景畫は少しも其感じがせ

如きは實際浮世繪風景畫中の最大傑作を認められる位であるけれども、又或ものは空と水と藍のふきほかしを用ひ過ぎ目出、夕陽に紅色のほかしを用ひ過ぎ、夜景、雪景に墨のほかしをつかひ過ぎてゐる。中期以後晩年に到ると此傾向が甚しくなつて、生々しい強烈な藍色や、紅色を必要のないのに拘はらず、必ず天の一方に置かなければならぬやうになつて見える。これ或は刷師の小細工に拭きほかしや板ばかしの腕前を自慢する爲め、殊更そんな注文をしたかも知れぬが、後年には大家と尊重せられてゐた廣重がそれに干渉することの出来ぬこともあるまいし、藝術に對する自尊心があれば、それを却けることも何でもあるまいと思ふ。然もそれが二杯三杯目以下の刷なればであるが、板下ろしと見える刷のうち殊に目立つてさうしてゐるのが多いのは遺憾である。さうして六十餘州名所圖會を初め晩年の諸作は藍や紅色のほかしでは満足が出来なくなり、無理に土佐繪のやうな模樣的の雲や霞を描いて、政信や、重長の浮繪に後戻りしてゐる。

す、日本の山らしい山を描き、日本の水らしい水を描へてゐる。然も今迄の風景畫家は時間を表はすことが出来なかつたけれども、廣重は朝、晝、夜、晨明等を區別して描いたり、それから雨、雪、霧、霞を巧みに表現した。例は豊春などの浮繪を見ると兩國橋の夜景でも、空を墨でつよしてそれに花火の紅い色が廣がつてゐるばかりで、群集してゐる男女や、霞張りの茶店は晝の景色である、丁度上半分が夜で、下の方は朝だか日中だか分らない。北齋の如き大家でさへ有名な富士三十六景や、諸國遊巡りの中に其時間を表はすことを忘れてゐるものが多い、僅に富士三十六景中、凱風快晴(赤富士)と山下白雨(雷光富士)との二葉が其色調を異にして夕陽と風雨を巧妙に描いてゐるばかりである。廣重は其の處女作、横繪東海道に於て既に雨雪の景を寫すことに絶大の妙技あることを證した、其後は晩年に至るまで、巧みに淡色の顔料を使用して自由に黎明や暮色の氣分を遺憾なく描寫してゐる。

文明問題としての
玩具繪の研究 (二)
文學士 權田保之助

玩具がその時代の文明に離すべからざる關係があるといふ事は以上説く所の如くであるけれども、我々は更らに進んで考へて見度いことがある。それは其時代の生活が玩具に表はるるに方つて何故に種々の形を取るに至りたるか、殊にある時代には特別或る種の形をとりて表はるるか、見れば他の時代には主として他の形にて表はれるかといふ現象がそれである、即ち易しと云へば其時代の生活が何故にある時代には繪としての玩具で表はさるか、何故に他の時代には繪でなく器具としての玩具で現はれるかといふ問題である。此の區別を生せしむる所に又、時代の文明の特徵を語るものあるを知らなくてはならぬと思ふ。其處で我々は何故に江戸時代には繪として現はれたる玩具、即ち「玩具繪」が基本の玩具となり、明治時代に入りては其れが漸く衰へ行つて器具としての玩具が玩具の中心を形作る様になつたのであるかを考へて見ることの興味を感ずる。

玩具繪が江戸時代に盛んであつた所以は他でもない、それは時代が封建的都市職の時代であつて、經濟がなほ未だ家を離れず、手工業が最も重要な工業經營形式となつてゐた結果は生活が到底家內的室內的たらざるを得ぬものである。而して此の室内的生活に於ける玩具として繪としての玩具の右に出づるものはない。玩具繪が江戸時代に樞要の地位を占めてゐたことは決して偶然でない

幼稚と武者繪



武田勝元
清和源氏
左京大夫
信虎の男
あり勿也
勝永依り太郎種信と改む
幼きころ名將の機
あそびを中め物也
重政と云ふ後
朝葉々信を号す

し、生活は戸外的となり公開的となつて玩具繪は其宿るべき家を失ひ、器具としての玩具が戸外を跳び廻り、空を翔る様になつた。斯くて玩具繪は江戸の文化を終始したのである。

以上は文明問題としての玩具繪研究の序論である。大項よりは細論に入つて、先づ玩具繪の分類をなし、更に進んで各目に就いての研究を進めやうと思ふ。

五、玩具繪の分類

玩具繪はこれを如何に分類したらよいてあらうか、思ふに此の分類の立場は其研究の側面如何によつて異なるものであらう。即ち或はこれを教育的側面より見、或はこれを藝術といふ側面から眺め、或はこれを經濟的側面より觀察するによつて、夫々異つた分類を爲すことが出来る

と思ふのである。斯くて私は文化といふ側面から玩具繪を調ふる時には如何なる分類の立脚地を取るべきかといふことが問題となつたのである、そして其れには玩具繪が抑々發生するに至つた動機を如何によつて分類をした方が一番に適當であるかと考へた。六ヶ敷と云へば「成立動機による玩具繪の分類」である。

毋斯かる立場に立つて玩具繪を分類して見れば先づ以て其れは二つの大きな部類に分たれる、即ち一は「他目的の玩具繪」で一は「自目的の玩具繪」である。この様な言ひ方は少しく不穩當であるかも知れないけれども、前の「他目的のもの」といふのは初めより其繪を自身を玩具として作るといふのでなくて、何か他の目的の爲めに（尤も子供を中心としてゐるのは勿論であ



江田源治

るが）出来上つたものを稱するのである、従つてそれは純粹の玩具繪としては第二次的のものであり、實用味の勝つたものなのである。然るに後の「自目的のもの」と呼ぶのはそれは其の繪を自身を玩具として作るものを云ふのであつて教訓の爲めとか病魔を拂ふ爲めとかいふ實際的の目的の爲めに作つたものでないのを稱するのである。それを今實例に就いて話せば、従來は武者が題材として書かれて居さへすれば如何なるものでもこれを等し並みに「武者繪」と稱して居た様であるが、此の私の分類によれば同じ武者繪でもそれには二通りの大區別があつて、即ち一は他目的（教訓的）の武者繪で、他の一は自目的の武者繪である。挿圖に就いて其の間の差を感得して戴き度い。

文明問題玩具絵の研究 (三)

文學士 權田保之助

此くの如く論ずれば此の二個の部類は夫々に全く峻別されてゐて、少しの續き合ひの無い様に思はれるか知れないけれど、實際はそれ程嚴密な區別が付け得るものではないのである。それには何れにも付かぬ中間物があつて、考へ様によつては他目的のものともなり、自目的のものともなるものがある。又初め純教訓的であつたものが漸々崩れて行つて純粹の玩具絵となり掛つてゐる過渡のものもあるのである。さりながらそれかと云つて私の此の二大分類を棄つるの要はないと思ふ。中間物や過度現象があつて分類に困難を來すは常に此の玩具絵のみかは、人間一切の現象皆その邊に洩れないのではあるまいか。私達は其の各々の間にある中核の特徴を知りさへすればよい。そして後に其過渡の現象を考察すべきであると思ふ。而して此の「他目的の玩具絵」と「自目的の玩具絵」この夫々の特徴に就いては次の項に叙べ様と思つてゐる。此處には此の様な二大分類があるといふことだけを知つて戴き度い。初てその中の

こゝに京町大もんじやの大かぼちや其名は市兵衛とまうします、せいがひくうてほんにさるまなこ、ヨンヤサ、
 ヨンヤサ
 天明の頭世に名大に鳴りし元成は、此本成が曾祖父なり花の色うつろひゆきはなげきしを紅葉はちるもあかすをかしの
 八重がすみたちてゆくへやとむらむめぐるも運き春の日の影
 こゝに云ふ元成とは、二世の事か、二世ならば祖父なりけり、先々加保茶も浦成になりて、蔓も絶えけりこ、筆を擱く。(大正四年乙卯八月十一日)

浮世絵雜記

豊國と浮世風呂

初代豊國は文化頃、申橋の三笑亭可樂の隣りに住んで居た或る夕三馬が來たので可樂を招いて一席唱をさせた、それが錢湯新語で、これを聞いて三馬が筆をとつたのか、浮世風呂、つまり動機は豊國の家から起つたのだと、其書の凡例に出て居る

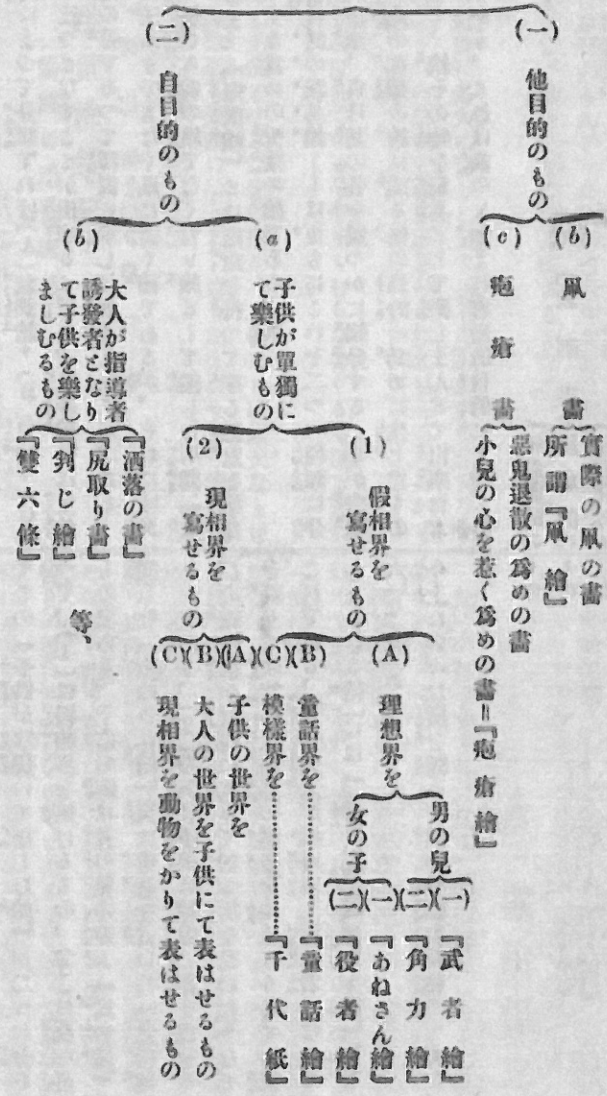
(一)他目的の玩具絵——は更らにそれを三つの種類に分つことが出来ると思ふ。一體この部類の繪は或る他の目的の爲めのものであるからして、それを分類する爲めにはその客觀的目的によつてせねばならぬのである。而して今其の目的によつて分類すれば(A)教訓繪。(B)風繪。(C)疱瘡繪の三つとなすことが出来ると思ふ。「教訓繪」は童幼訓蒙の爲の書であつて挿圖に示した如きものこれである。「風繪」は云ふまでもなく風に書く繪であるが、それには又風として揚ぐる爲の繪でなくたり繪として楽しむ所謂「風繪」がある。「疱瘡繪」とは疱瘡を持つて來る悪鬼を追ひ拂はうとする爲めの呪禁の繪である。次に

(二)自目的の玩具絵——は更らにこれを二つの種類に分つことが出来、尙ほ其の各を幾つかに細分することが出来る。抑々此の部類の繪は或る他の目的の爲めに生じたものでなくして、繪その物を玩具として楽しまんとて出來たものであるから、これは前の如くに客觀的目的によつて分

(a)「教訓書」諷刺的のもの
 滑稽化するもの

類するに由がなく、主觀的目的、即ち享樂の主體によつて種類分けをしなくてはならぬ。斯くて其れによつて分てば(A)子供が單獨にて楽しむ繪。(B)大人が指導者、誘發者となつて子供を樂ましむる繪の二つとなると思ふ。而してこの「子供が單獨にて楽しむ繪」が二つに分れるのであつて、(1)は假相界を描けるもの、(2)は現相界を寫せるものである。(1)の例は男の兒の弄ぶ「武者繪」女の兒の樂しむ「あねさん繪」又は童話を畫いた「童話繪」などがそれであり、(2)の例は子供の遊戯の態を寫せる「子供遊戯の繪」猫が錢湯に入りて居る所を書いたりなどして動物を藉りて現實の人間界の様子を現はさうとする玩具繪などこれである。次に「大人が指導者、誘發者となつて子供を樂ましむる繪」には「洒落の繪」「尻取り繪」「判じ繪」「雙六」などである。

今上にのべた所を纏めて其の分類表を作つて見た。



斯かる分類法によつて玩具繪を整理することは確かに意味のあることである。たゞ漫然と「玩具繪」として寄せ集められてゐたものを兎に角此の様な手紙をかけて整理して見ると統一した面白い研究の對象となり得るもので

あるといふことを云ひ度いのである。次號には玩具繪の二大部類の特徴を論じ、而して其が文化問題に對して如何の位置を占めるかを調べて以て此の稿を結ばうと思つてゐる。

役者から繪師となつた歌川國春

齋藤ひろ麿

俳儼から繪師となつたもの遠くは鳥居派初代清信の父、庄七の清元あり、今爰に文政天保の時代に此社會から繪師になつた嵐徳三郎事歌川國春について云つて見る。

先づそれを云ふ前、此人について大分誤り傳えて居る事があるから、國春の出て居るものだけ愛へ藏前の天道千の格でヅラリッど併べて仕舞。俳儼世々の接木、嵐冠十郎の條實子嵐冠之助、病身に付役者を止め江戸の浮世繪師豊國門人となる歌川國春と云ふ早く世を去る

續歌舞伎年代記
名人忌辰録

略は右に同じ
二代目嵐猪三



浮世繪師便覽。浮世繪備考。には共に貞の門に入る。と記せり。

歌川國春 以上師と仰いだものを一世豊國或ひは五渡亭國貞としてあるが何れも何かの誤りで、師としたのは弘本郷豊國と云つた後素亭豊國であつた。それは彼が繪師になつた時の名弘に出した摺物に、豊國ぬしの机にすがりて云々とあつて、その國の繪を後素亭が描いて居る。上圖(吉)の参照)の最一つは文政十一年の里秋柳島妙見堂境内に建てた筆塚、(廣氏)「豊國先生埋筆之記」に、二世豊國社中の下に國富、國朝、國久女、國春と四番目に名を列して居るので

文明問題としての玩具繪研究 (四)

權田 保之助

六、他目的の玩具繪と自目的の玩具繪との特徴

以上の分類に於ける二大種目である他目的の玩具繪と自目的の玩具繪とは夫々如何なる特徴を有しつゝあるか。而して其の特徴が時代の文明を研究する上に對して如何なる役割を演じつゝあるかは、重要にして且つ趣味ある問題であらうと思ふ。

先づ他目的の玩具繪は其の當初の成立動機によつて必然的に子供に對しては對立的のものとなつて來なくてはならぬ。即ち其れは一段高い所から子供を指導するとか、他の優れた世界から凡てに劣つた子供の世界を教化するとか、或る他の實際的目的に子供を向けるとかいふ風で、何時でも子供と相對立してゐる。言ひ換ふればその繪の表はす世界は子供の世界とは全然別種の世界なのである。此の結果として其れに表はれて來る繪には恐れ味といふ様な氣持が出て來るのは寧ろ當然であつて、又物の表はし方が外面的

で、従つて知的聯想的であり、説明的敘述的であるといふのも自然の數であると言はねばならない。

次に自目的の玩具繪はさうであるかと言ふに、それは矢張其の成立の動機によつて子供に對して融合的のものとならざるを得ない。即ち其れは一段高い所から子供を指導し教訓するといふのではなくして、子供と同じ列に立ち、子供の生活に伍して行かうとするものであるから何處までも子供と一所にならう子供と結び付かうとしてゐる。言ひ換ふれば其の繪の表はす世界は子供の世界もしくは其の繼續又は延長なのである。此の結果これに表はれ來る繪には前の様な恐れ味はなくして親し味が出て來るのであつて、又其處に表はさるゝ物の表現の仕方が内面的で、従つて情意であるといふのも必然のことであると思はれる。

此の二種の行き方と其の特徴とは玩具繪に就いて諸君が隨處に之を認め得る所であらうと思ふのであるが、其の例としては本誌前號に掲げた二つの「武者繪」が能くこれを明らかにして居ると考へる。一方武田勝千代を表はしてゐるものは其の主題が少年であつて、これを觀る子供とは主題に於て相近いものであるけれども、其の表現の意味目的が

全然他目的なるが故に子供に對しては如何にも對立的であつて親し味が無く、知的聯想に訴へる表現法を説明に力めて居る。殊にあの挿畫には表はすことが出来なかつたけれども、其の原圖には其の地の下宇部に黃褐色の白斑點を散して、金砂子を利かしてゐるあたりは出來るだけ教訓的に又威壓的(?)に出來てゐるものと云ひ得るのである。然るに片一方の江田源治を表はしてゐるものは其の主題は大入であつてこれを見る子供とは主題だけから考ふれば極めて相隔れるものであるけれども、其の表現の仕方を調べて見ると、それは決して一段高い所から子供を教化しやうの威服せしめやうのいふものではなく、如何にも子供自身の生活に融和し、何となく親し味があり、其れに對する私達の氣持は知的聯想的に冷やかに働かないで、情意的の何となく温か味を感せずには居られないものである。殊に其れ子供に對して最も牽引的な繩を配して居る所は前の金砂子と相照應して子供の世界と融合的であるといふ心持を一層よく表はしてゐるといひ得るのである。



浮世繪雜記

今はありませんが神田松宮町に私立で石川學校と云ふのがありました。その校長さんが、明治の繪繪を見ては日暮の様に圓周が偉い、偉い身ではない名人だと言ふのです。先生何點か偉いのです又何點か名人ですと聞くと、だつて偉いやアないか今(明治廿七年の事)日清戰爭で繪繪工は働つて彫物の競争物を描いて居るのにも偉い。自分は何處までも後者繪を描いて意志を挫げない所が偉い、それは先生圓周が偉いのではない他の繪が描けるのでせふイヤアでない。聞ても國政でも描いて居る所を見れば描けるのではない、あれは己の専門以外には筆をさらぬと云ふ權式だ又名人と私が云ふのは、あの假顏畫は面々體斗り大きくつて手が小さい繪繪の子みたいな格合だ、他の畫師にあれを描いて御覽なさい丸でなつて居やアしないそれを圓周が描くと、ちゃんさ形か整つてらつとも可笑くない、あすこが名人だ、あの人が死んだら、モリ假顏繪もおしまひださ、云われましたが、果して圓周が死ぬと共に繪取假顏が繪業書屋に焼つてしまひました。(竹清氏談)

腕を揮ひしもの頗る多し。

自分の古き友であつた富岡永洗氏は永濯の高弟であつたが師の佳話として語つたことがある。永濯嘗て神奈川の妓樓であつた神風樓の裏に左甚五郎が京人形を彫刻する繪を物したことがある。其後伊太利公使マルチノー氏は是を見て其書の巧妙に感じ樓主に請うて譲り受けんとしたが、神風の樓主もこれを惜んで其請ひを容れなかつた。公使は猶も斷念しがたく然りて何と詮すべなれば、右の書を暫く借受け某の書家に模寫せしめたが其意に充たざれば再び樓主に強請し巨額の金を贈つて漸くこれを譲り受けたと云ふ。

これが縁となつて伊國公使の依頼により屢々揮毫し又例のフエノロサ氏の依頼を受けて鑑書會の常備品をものする杯。永濯の書名内外人の間に喧々たるものであつた。



カット代り

山兵衛

○天明三年癸卯が卯の初であるこんにやく本領情知惠鑑は忍ヶ岡歌麿殿にて雲樂仙人の著に

買て北尾や春章が在がごとく心を動かす錦書を二枚屏風のびんぼうかくしに張附て毎日まいにち詠しんと吾妻の女の風俗に惚れて居る云々

破れ屏風に張附られしこんな錦書が有らばと思ふらめ

○文久元年の庄内鶴岡の盆踊唄に辻書師といふありふでさきのはこびも早き人あし、ゆきをさむる辻書師が、おのぞみしたいにかきちらす、花の色里うつりさの、つひうかれ女にうかれひかる、三味は、ちんぷんかんだまご、うまひ手くだのけん酒、いろもかもあるとよの秋。

辻書師の稱面白し江戸にも此名稱ありしか

○藍川貞恭の隨筆譚海卷之三に
金龍山淺草寺境内彌惣左衛門稻荷の社頭に寶永年中奉納せし繪馬あり蓋川某の繪にて堺町芝居の圖をゑがきたり其頃の芝居の體今見るが如し三階の棧敷なり戯者の風

文明問題玩具繪研究 (五)

文學士 權田 保之助

七、玩具繪の各種目に現はれたる文化

斯くて問題は本研究の始めに戻つて文化の問題に歸りて居なくてはならぬ。而して此の玩具繪の各種目に於て私達は何なる文化の側面を表はすものであらうか、如何なる文化の側面を其れ等によつて知り得るであらうかといふことを考へて見度い。

第一に所謂「他目的の玩具繪」は如何。この種類に屬するものは其の目的其の物の研究が第一着に興味あるものである。即ち其の「教訓畫」を藉りて行つた其の時代の教育の方法及び趨勢を知り、併せて其れに淵源した時代の知的生活及び情感生活を窺ふの一端を得ることが出来るであらう。「風の書」及び「風繪」に現はれてゐることによつて其の時代の人々の心を動かした理想を知り得やうし、「疱瘡畫」なるものを何故に生ずるに至りしか、疱瘡の禁厭として何故殊更に繪畫を取るに至りしかをさふ點に時代の迷信と共に時代の繪畫の位置を知る緒を發見することが出来はし

俗も甚古質なるもの也此外に寶永の頃の繪馬社頭に多し珍敷觀物也又同所二王門外に地主の稻荷といふあり是にも元祿年中の繪馬あり方士二人甚を圍みたる體にて甚猛勇に見ゆ側に小人麻上下にて傍觀の體を畫がけり彫形若者中奉納としるしあり云々
菱川の繪馬他にもありしが淺草のは多分燒失せしことならんか惜むべし
○疱瘡繪と稱する一枚繪は必ず紅のみの摺りにてあるゆえ紅繪とも云はれしものなるが何故紅一色にてするか云ふに疱瘡は痘色紅色なるを最上とし青色を中とし黒色を最下の悪性となせしゆへ紅色を貴びしより紅摺になせるは祝意を表せしことなり
○神佛の御影にも浮世繪師が書きしもの有ることならんが名をせるさやるゆえ知ることを得ず予が藏する古御影中に野州高根淨蓮寺の十五鬼神の御影は北齋ならんが名なし又日光山金剛童子の御影には鳥文齋榮之とある有り又田舎廻しの掛物仕立の錦繪には天満宮靈神庚申尊二福神等の御影を畫がきしものもありて此等は浮世繪師の二三等の手になりしものと見らる

まいか、次にこの「教訓書」にせよ、「風繪」にせよ又「痘瘡書」にせよ夫等が漸次其の最初の嚴肅なる目的より脱化し行いて益々自目的のものとなり行き滑稽化され享樂化され行く其の變遷の經過の間に其の動因となれる時代の思潮、時代の傾向を察することが出来はしなからうか。

第二に所謂「自目的の玩具繪」はどうかであらうか。此れは更らに分つて「子供のみのもの」と「大人が指導者となりて子供の遊ぶもの」とになして考へて見やうと思ふ。

そして先づ「子供のみの遊ぶ自目的の玩具繪」なるものによつては我々は其の時代の生活の縮書を見ることが出来るのである。男の兒の遊ぶ書によつて時代生活の外的側面を窺ひ、女の兒の戯む書を通して時代生活の内的側面を知ることが出来ることは已に叙べた所であるが、それ而已ならず男の兒が喜ぶ「武者繪」「角力繪」によつてその時代の男性の理想を推察し得るが如く、女の兒が楽しむ「あねさん繪」「役者繪」によつて其の時代の女性の理想を斷ずる事が出来ると思ふ。又切組細工とか切抜書とか組立書とかいふものには其の時代に於て新たに起り従つて時代の人々を驚かした文明現象が其の題となつて取られてゐる。更らに子供の

遊戯を寫し子供の世界を描けるもの其の時代の兒童遊戯法を知ることが出来て教育學上に少なからぬ參考を供するであらう。

次に「大人が指導者となりて子供の遊ぶ自目的の玩具繪」なるものによつて我々は其の時代の家内遊戯法を知ることが出来、延いては家庭生活の有様を推察し更らに家族組織及び當時の社會組織をさへ推論し出すことが出来るものである。殊に此の玩具繪の盛んであつた時代がかの封鎖的都市經濟の時代、警察國家の時代であつたといふことを考へて來ると此の種の玩具繪の研究が尠なからぬ意味を有してあるといふことを知るに難くはないであらう。

尙ほ進んで此の玩具繪は全體を大観し來り、或る時代には其の或種のものが盛んに行はれしが、次の時代には如何に推移し、尙ほ其の次の時代には如何に變遷し行きたるかを見て、其の進化の奥に潜む文化進展の跡を尋ねることも亦忘れてならぬ大問題であると思ふ。

其等のことが大成された時には、玩具繪の文明的研究は其の完結を見得たと云ひ得るのである。しかし到底容易な問題ではない。

私は以上でもつて玩具繪が文明問題として如何の意義と重要さを有してゐるかを叙べ、將來、私の此の方面に於ける研究の筋書をざつと書き併べて見たに過ぎないのであつた。此れを足場として初めて渾然たる玩具繪の研究の大成するのは此れを將來に期しやうと思ふ。(完)



喜多川美丸が二代北尾重政と改名

せし年代

喜多川美丸が北尾重政になつて、二代北尾重政になつた年代は文政十年の春からである。豊川亭雪庵作の「熊角力赤繩取組」表紙の外題裏題下の巻に書取を角力番附にしてそれに前頭として下の文が六行に書分けてある。前編下の巻、板元芝神明前。わかさまや奥市。書上重政之義は。よし丸と申候所。當年改名仕候。



田善と國政

大曲 胸村

浮世繪は元來江戸時代の文明に随伴して、専ら江戸趣味に深く根底を有つてゐた。故に之が版畫錦書を町繪或は江戸繪とまでいふてゐた。されば浮世繪師の出産は全く江戸八百八町の外に出でなかつたが、偶々偶々、江戸つ兒以外のもので立派に書名を上げてゐる者がある。之等は素より異例で百に對する一或は半であるかも知れぬが先づ列舉して見ると房州保田産の菱川師宜をはじめ、京都の西川祐信、川枝豊信、下河邊拾水、尾州の宮川長春、牧墨邊、大阪の竹原春朝、埼玉の羽川珍重、信州の歌川國直等がそれ等である。(但し祐信春朝等僅かに其郷里に永住してゐた者もないではないが、多くは江戸に出で、師に就き書名を買つた事は無論である)この中に本縣出身の者がある。然も二名迄ある。それは永田田善と歌川國政である。舊幕の文明が江戸を中心として西南に流れ、東北は實に藝園荒多に歸して、一藝園の趣があつた時に、綿爛華麗なる浮世繪を以て名を成したる者、然も本縣に二名迄算する

玩具繪の趣味「上」

文學士 權田保之助

十數年以前にあつては、心ある二三の人々を除いては、殆んど其の存在の價値を認めずしてあつた浮世繪が今日には社會の廣い範圍に愛玩珍重せらるゝに至り、枯木再び春に會するの盛運を見るに至つたことは誠に興味ある現象と云はなくてはならぬ。私は此處に舊式の美的評價が其の權威を失墜して、新しき時代に應ずる新しく生命ある美的判斷の生誕を見、轉々會々の笑を禁じ得ないものである。さりながら今一步を退いて靜かに此の事の真相を洞察し來る時は、其の間に尙ほ十分に徹底し切らざる不純の分子の介在するあるを悲まざるを得ぬものがある。

中に就きて私が怪訝に堪へぬ事柄の一つは、浮世繪が斯く一般的社會の興味を喚びつゝあるの今日に於て、其の分子なるわが玩具繪が斯くの如く甚しく過小視され、否な殆んど全く其の存在の如何をすらも忘れつゝあるといふ其の事である。新しく啓蒙されたる趣味の眼よりせば玩具繪の忘却せらるべき理由の存するなきを思ふものであつて

其のしかも現實に然らざる所以のものは新人がその趣味性の改造に於て尙ほ間然するものあるに存すと爲さざるを得ないのである。

私は會て時代の文明てふ背景の上に玩具繪の有する意義と其の研究の興味深かるべきを論じたことがある。私は此處には斯かる見方を離れて、趣味といふことの上より暫く玩具繪を語つて見度いと思ふ。玩具繪といふ常に新しく若き世代が有してゐた可愛らしい浮世繪の趣味を心行くまで味はして戴き度いものであると思ふ。

玩具繪とは子供を享樂の主體とする浮世繪を稱すと私は私に會て玩具繪の範圍を確定せんとして立てた定義であつた私は此の點から出發せんと欲する。

玩具繪は已に子供を享樂の主體とするものなるが故に、其れは常に子供といふもの、子供の心理といふものを目安として製作せられるものなりといふことには疑を挿むの餘地があるまいと考へられる。即ち玩具繪に表はれ來れる趣味は、之れが子供を目安とし、子供の遊戯の目的物であるといふ點よりして當然三つの方向に其の特色を發揮し來

るものである。曰く「子供の心理に即したる趣味」子供の遊戯として現はされたる趣味玩具製作の約束より生じたる趣味」これである。

(一) 子供の心理に即したる玩具繪の趣味

私は此處に見童の心理を解剖して其れが知情意の三方面に如何なる現はれを示すかを細論するの違なきを告白する而して假令よくこれを成し遂げ得たりとするも恐らくは實効上徒勞に終るべきことを知るものである。私は此處には極めて大まかなる觀方を捉へ來りて、兒童の心の働き方を其の知的側面に於て「直觀的」、其の情意的側面に於て「原始的」もしくは「素樸的」心全體の活動の側面に於て「空想的」と見んと欲する。

子供は決して三段論法的に思索するものではない。彼は常に一段論法的である。彼の頭を充すものはたゞ臆測たる結論のみである。彼は實に結論から結論へと針の尖端を跳んで行くやうな全我的生活を續けて行く。彼は「AがBにして、BがCなり、故にAはCなり」といふ如き生命を度外視した論理的遊戯に何等の感興をも感せずして「AはA

も」十分豊富なる内容を示し、遺憾なき直觀性を具備しあるものである。玩具繪の趣味は先づ此の「直觀性」に存することを知らねばならぬのである。

子供の情意活動は極めて素樸である。原始的である。彼は刺激に對して極めて正直なる反應者である。美しいものに對する驚き」といふことは文學者がよく口にする言葉であるが、これを眞に現はすものは彼子供である。美しい物を見て眞に驚喜するもの彼の如くしかく甚しきものはあるまいと思ふ。この刺激に對する忠實なる反應者は其處に刺激其物の單純ならんことを要求する、純一ならんことを希望する。爽雜し煩瑣なる刺激は彼の情意活動には風馬牛である。彼が有する唯一の彼が爲めの藝術たる玩具繪が其の間隙の事由に即せざるを得ざるは實に至當のこと、云はねばならぬ。即ち其の内容たる題材に於て、又其の技巧に於て構圖、線、色彩に於て勉めて素樸にして原始的ならんとしつゝあるは玩具繪一般に之を認め得る所である。簡雅素樸は我々に深い興味を喚び起す、しかも玩具繪の齋らす趣味はそれと少しく趣を異にして「原始的素樸」「幼稚的素樸」の味を以てする。兎角に脱俗の臭味に偏し易き簡雅素樸に

なり」てふ直覺に活く。象徵主義の藝術は彼等にあつて一顧の値をも有し得ない。問題藝術は彼等に於て没交渉である。彼等は前提なき心を披いて物象の眞に觸れやうとするのである。彼の爲めの藝術、即ち玩具繪が如何なる他の藝術にも勝つて「直觀性」に富んでゐることは寧ろ當然の勢と稱せざるを得ないではないか。而して此の「直觀的」てふ要素は玩具繪を支配しゐる重大なる原則であつて、構圖線、色彩の上に玩具繪に一種の特徴を生ぜしめ、特異なる趣味を生ぜしむるに至るものである。即ち他目的なる玩具繪第二次的なる玩具繪を別にして本來的なる玩具繪に於ては時間的及び場所的に異れる事件の聯想を主なる要素としゐるもの死んだこれを見るを得ず。常に現在の其の場所に於ける事件その物に終始する構圖に立つ、中には「猿蟹合戦」「桃太郎」等の童話繪ありて時間的連續を表はすものがないではないけれども、其等とても斯の繪巻物等に見る如き時間的連續を表はすを主なる目的としゐるものとは意味を全然異にし、その時間的連續は唯だ全體の筋を運ぶのよすがたるにすぎずして、各箇々の場合を表はせる繪は其の一箇の繪それ自身に於て（前後に來る繪を全く離れて

反して、これは津々たる人生意味を寄せ來るものがある。玩具繪の趣味は第二に此の「原始的素樸」てふ點に存することを知らねばならない。

子供は空想の寵兒である。否な空想その物である。彼は自分自らを空想世界の主人公であるを考ふる程それ程空想の生物である。彼に對しては電燈も物を云ひ、犬も歌ひ、猫も泣く、机、椅子、帽子、劍何物か彼れと共に語り共に笑ふ親友ならざる。彼の眼にはあらゆるもの皆精神に充ちて躍動しつゝあるのである。此處に於てか、此の空想世界の主人公たる彼が爲めの玩具繪には、あらゆる物が精神がある。そして主人公の爲めに凡ての物が躍然として生命の諧音を高唱してゐる。これが藝術の表現に影響してその題材は奇想天外となる、其の構圖は自然法の破壊となる、その色も、其の線も小さな世界の制扼を超越してゐる。而して凡てを超えて生命が高鳴つてゐる。玩具繪の趣味は此處に至つて遂に其の最高點に達するものである。斯くの如き絶大な趣味を我々に與ふるものが玩具繪を除いて果してよく何物があるであらうか。(未完)